

地区スローガン：「Love Other Spirit ～繋ごう次世代へ 夢ある未来に向けて～」

クラブ方針：「豊かな心を持とう! 今こそ『絆』」

国際ロータリー第2790地区 第3グループ 千葉西ロータリークラブ Rotary Club of Chiba-West WEEKLY COMMUNICATION

創立 1976年1月20日 承認 1976年2月25日
会長 今野 文明 幹事 本橋 和也
例会場 千葉スカイウィンドウズ 東天紅 センシティブタワー23階
TEL 043-238-5555
例会日 毎週火曜日 12:30～
事務局 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階
TEL 043-245-3202 FAX 043-245-7522
E-mail : chibawestrc@wrpc.co.jp
URL : <https://www.chibawest-rc.net/>



千葉西ロータリークラブ

納涼絆例会

■「納涼『絆』例会」・延期のため臨時週報会長挨拶 / 今野文明 会長

皆様、改めまして、この厳しいコロナ禍の中、本年度のロータリー活動にご理解、ご支援を頂き誠にありがとうございます。8月2日に緊急事態宣言の発出のため、残念ですが本年度、最初の大きなイベント「納涼『絆』例会」を延期させて頂きました。

本年度のテーマ「豊かな心を持とう! 今こそ『絆』」を念頭に置き、前田委員長率います親睦活動委員会の皆さんが、今の世の中に合った企画ということで、委員会を重ねた結果「納涼『絆』例会」が生まれました。新任の前田委員長は、前例のないこの企画に、悩み苦しんでいましたが、その結果である例会を私も楽しみにしていましたが本当に残念です。あくまでも延期なので、いつか実現したいと考えています。

前田委員長の一生懸命さに引っ張られるように、委員会メンバーの出席率も良く、活発な意見も飛び交いました。メンバーには新入会員も多くその委員会への取組む一生懸命な姿勢、爽やかさに、今行われているオリンピックにだぶることもありました。

その東京オリンピックも終盤を迎えています、メダリストのインタビューで選手の皆さんが、そろって「オリンピックを開催して頂きありがとうございます、感謝します」と言っています。私が開催した訳でもなく、大会関係者でもありませんが、そんなこと言わなくていいよと爽やかな気持ちになります。心の動く瞬間が多く、こんな状況の中ですが心に残る大会になると思います。これがスポーツマンシップ、今はスポーツマンとは言わず、アスリートですが、開催前に政治がらみでいろいろ有りましたが、そんな事どうでも良くなりました。ただ一生懸命、頑張っている姿を最後まで応援したいと思っています。

また、昨年度から「納涼家族例会」が実現しておりませんが、決して忘れてはいけないのは、例年ですと国際奉仕委員会による子弟交流事業、台湾高雄北区 RC との共同事業で4日間の工程の子弟のショートホームステイ事業があり、また社会奉仕委員会による地域貢献のための社会奉仕活動、千葉いのちの電話及びディアフレンズ美浜への支援活動としての義援金を贈呈する事業などがあります。

そしてロータリークラブの全ての事業は、会員の皆様と特にご家族のご理解、ご協力で成り立っていると言っても過言ではありません。コロナと戦う時代から、コロナと共存する時代ということで、次年度は家族も楽しみにしている千葉西 RCらしい「納涼家族例会」が実現することを心より祈念し、私の挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

■ 親睦活動委員会 委員長 前田善弘 「親睦活動委員会より納涼絆例会延期を受けて」

コロナ第5波の急拡大により納涼絆例会が延期となりました。会員の皆様の安全・安心を最優先した決定ですので、残念ではありますが仕方がない事だと思います。納涼絆例会に向けての準備をする上で、コロナ禍で家族が呼べないのに納涼例会を開催する意義・目的は?との問い掛けからはじまり、納涼例会を開催する目的を明確化するところからはじめました。

大森副委員長から目標とテーマの指針を頂き、今回の納涼例会は絆を再度考える会にしたい。会員相互知ることを納涼絆例会のテーマにしよう!そして「みんなが楽しめるアトラクションを」というところから議論が進み始めました。

ただ、現在の感染防止対策も考慮しながらの企画については、様々な意見やアイデアが上がっては修正しての繰り返しでした。

3名の副委員長をはじめ、委員の方々に多数出席をして頂いた事で活発な議論ができる委員会になれたと思います。

企画の発表は延期になってしまいましたが、入会歴の浅い会員から先輩会員へコミュニケーションを取る過程がすでに絆を深めるアトラクションの一部でしたので、その目標は達成できたのではと思います。

また、クラブ奉仕委員長・クラブ研修リーダーには議論を進める中で、目的や公平性などの方向性がずれていくのを軌道修正して頂いたり、未熟な委員長である私が委員会を盛り上げていけるようにメンバーを激励してくれました。誠に感謝しております。

今回の企画についてご協力をお願いした会員の皆様方、いつも沢山の資料と委員会の準備をしてくださいました事務局森川さんにも感謝を申し上げます。ありがとうございました! 今後どうぞよろしくお願いいたします。



■ 大森 薫 副委員長 「初めての企画＝納涼「絆」例会は“スタート & ストップ”」

7月をはじめ今野年度の納涼例会は「絆を深めるために旧会員3～4名（PP）に卓話を依頼するという企画」が前田委員長から発表された。即、前田委員長から副委員長専用ライン網が作られ、下打ち合わせの協力要請があった。まもなく、白井（副）から「楽しめる企画にしましょう!」という委員長励まし長文ラインが届く。「楽しく・面白くやる企画」を立てよう案が出た。私はこのラインを見て、これは面白くなりそうだなと思った。では、自分もちょっとがんばるか!白井（副）の挑発に乗った。

7/6の例会日に立ち話で、具体的な企画案の概要を前田・白井さんに私から話した。“卓話は何度も例会でやっているし、納涼「絆」例会はイベントですから「楽しめる要素」がベースにあった方がよいよ!”即、意見は一致。こういう企画は会って話さないとその意図は伝わらない。急なので、何人来るかわからないが、7月9日（金）に第1回委員会を開こう。当日、最初は4～5人でしたが、時間が経つにつれ、来るわ!来るわ!ズーム参加者も出て来た!何人も!事務局の会議室に入りきれない。みんな協力的だ。委員会が先に盛り上がっちゃうか…?すると、荘司（副）さんから面白い提案が次から次へと出てくる!この人の職業は何?前職歴は何なの?面白い人だ。アイデアマンだ。親睦には欠かせない人材だ。委員会の滑り出しは順調。

こうして、「一人20～30分のPPの卓話」企画から「新旧の交流を図る為に、新入会員が聞く堅苦しくない・柔らかい質疑応答を旧会員（PP）にする」企画が生まれました。

「何を話す…?聞くことがわからない。話すことをリストアップするには情報収集をしなくては…!」いきなり、7月13日（火）の例会日に、前田委員長が動く!翌週7月20日（火）に白井、武田、持田、川崎、中村さん等々のメンバーが動いた!千葉銀の伊藤さんからメールで聞き取り情報が早くも流れてくる。すごい!RCのメンバーは元々沢山の部下を引っ張っているリーダー格の方達です。企画の掴み・飲み込みが早いし、行動力がある。素晴らしい。親睦委員会は各自がそれぞれ動き始めた。皆さんは自分の役割を果たすべく動き始めたのだった。

しかし、突然、インタビューが始まったので、問題が起きた。受ける旧会員（PP）が戸惑った。“なんで俺なんだ?変なこと聞くな?白々しい?etc”同時に、質問者の会員もそのあおりを受けて、意気消沈する人もでた。“こういう反動・抵抗を乗り越えてこそ絆だ。趣旨と意図を伝えれば、理解してくれる人ばかりだ。段々、委員会の空気が変わってきた。今年の親睦委員会は面白い!もう、「納涼絆例会」は始まっている。”だが…? “

“いま、コロナ非常事態宣言で、企画はストップ。そして、クラブの水面下で起こった親睦委員会の活動をほとんどの人は知らない。”

■ 武田逸朗 会員

前田委員長ご苦労様です。

このコロナ感染拡大の中での、安全を最優先されたやむを得ない判断だと思います。判断を下された、会長・幹事、他幹部役員の皆様方ご苦労様です。

特に意気込み等はありませんが、今回の納涼「絆」例会の準備に加えていただき、ようやく、この会の中に自分の居場所的なところがあったと感じることができました。

会社組織とは異なり、親睦的な組織では意思の疎通・統一が難しく、その分、委員長はじめ役員の皆様はご苦労されていると感じました。

この世に必要な人はいないと言われるように、やって無駄なことはないと思います。また次につながる準備であったと思います。

■ 持田真樹 会員 「この度の納涼絆例会の親睦活動委員会の打ち合わせについて」

議論した内容は納涼絆例会のアトラクションについてでした。議論を深めていく過程で得られたものは大きかったと思います。

親睦委員会メンバー内でのコミュニケーションについて、これまでの例会だけでのコミュニケーションでは得られなかった会員相互のコミュニケーションが取れたことが大きかったと感じます。会員同士で同じテーマで議論をしたことによりそれぞれの話しぶり、人となりを理解するきっかけになったことが挙げられます。

議論を積み重ね結論を導き出す過程は最適な解に近づくために集団の合意形成を得ようとするものです。その際に、会長・幹事がトップダウンで指示を出し、方針、方策を決定するのではなく、親睦委員メンバーの主体性に委ねて下さったことにより有意義なものになったと感じます。

議論の内容は、四つのテストの好意と友情を深めるため、絆を深めるためのものであり、参加者が自分自身のことではなく会員全員のことを考えたものであったと感じられ会員間の奉仕の心を認識することができました。

オブザーバーとして参加して下さった、西川さん、渡邊さんにおかれましては、委員会の話し合いの中、予算、景品について議論をする過程で指摘をして下さり方向を修正して下さいました。指摘内容は、やはり四つのテストの皆に公平か、皆のためになるかどうかに基づいて公平性についてでした。この指摘があったことで、四つのテストの理解が具体化され、実践的なものになりました。

支店の長を務めますと支店内では部下と議論することはほとんどなく、トップダウンで業務遂行を行うことが多いのが現状です。合意形成を行うための議論の重要さが認識でき、この度の委員会は大変有意義なものでした。

以下、課題と感じたこと

当初の話し合いの焦点が、どのような形で盛り上げるかという点に終始してしまいました。盛り上げるという点に焦点を当てた結果、どのような形で笑いを取るのか、そのために何が必要か、を考える時間が多かったことだと思います。

二点目は5回の委員会で景品について議論を一度終了したはずが、6回の委員会で別の形で景品を出すことが提案され、同じ内容の議論に時間が割かれたことだと思います。

僭越ではありますが以上がこの度の委員会での感想です。

川崎美嘉子 会員

新型コロナウイルスの感染がおさまらず不安な日が続いています。
残念ながら納涼絆例会も延期となってしまいました。

会長方針に基づき、会員相互及び会員家族との親睦を図り、さらに絆を深めていくことを目的として、絆アトラクションにむけて委員会の皆様の熱意にあふれた意見交換が重ねられました。圧倒されそうな私ではありますが、不慣れな新米会員の私にも何気なく、言葉を差し述べて下さり感謝しております。延期にはなってしまいましたがその時間を大切に、楽しい絆例会になりますよう頑張ってみようと思います。よろしくお願いいたします。



姉妹クラブ『高雄北區扶輪社』初例会

福島から贈る感謝とエールのコンサート

Concert of Cheers & Gratitude from Fukushima

震災から10年、支援への感謝と
コロナ撃退のエールを日本全国・世界へ

2021.8.30 (月) 開場 13:30 開演 14:00
いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール 無料・全席自由

このコンサートは、今年でロータリーとの出資で震災復興支援の活動を始めて10年。当時、全国・全世界からのこもった大きな支援を福島に送っていただきました。あの時からずっと感謝をしながら、これからも感謝とエールの贈り合いを続けたい。また、このコロナ禍を乗り越えたいという願いからエールを送りたい。感謝とエールのコンサートを開催しました。これは、昨年開催になったテレビドラマ、最新の音楽家・芸術家を招いたコンサートに似ています。感謝とエールの贈り合い、感謝を込めて贈るエールを込めて贈ります。

このコンサートは、今年でロータリーとの出資で震災復興支援の活動を始めて10年。当時、全国・全世界からのこもった大きな支援を福島に送っていただきました。あの時からずっと感謝をしながら、これからも感謝とエールの贈り合いを続けたい。また、このコロナ禍を乗り越えたいという願いからエールを送りたい。感謝とエールのコンサートを開催しました。これは、昨年開催になったテレビドラマ、最新の音楽家・芸術家を招いたコンサートに似ています。感謝とエールの贈り合い、感謝を込めて贈るエールを込めて贈ります。

このコンサートは、今年でロータリーとの出資で震災復興支援の活動を始めて10年。当時、全国・全世界からのこもった大きな支援を福島に送っていただきました。あの時からずっと感謝をしながら、これからも感謝とエールの贈り合いを続けたい。また、このコロナ禍を乗り越えたいという願いからエールを送りたい。感謝とエールのコンサートを開催しました。これは、昨年開催になったテレビドラマ、最新の音楽家・芸術家を招いたコンサートに似ています。感謝とエールの贈り合い、感謝を込めて贈るエールを込めて贈ります。

福島から贈る感謝とエールのコンサート

震災から10年、支援への感謝と
コロナ撃退のエールを日本全国・世界へ

Concert of Cheers & Gratitude from Fukushima

〈第1部〉
・クライスラー 愛の喜び
・クライスラー 愛の悲しみ
・サライコフスキー ドムカ op.59
・ジョスカノーヴィッチ
二台ピアノの為のコンチェルト op.94
・サラサーテ ヴィゴネルワイゼン

〈第2部〉
・ラフマニノフ ヴォカリーズ op.34, No.14
・ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第二番 op.18

吉田昂城 (ピアノ)
KOKI YOSHIDA
地区補助会幹事、17歳よりオーストラリアの
アントン・プッチャー音楽大学へ留学、2015年より
ウィーン国立音楽大学ピアノ科に在籍、ピアノ専攻、
福島県立音楽院ピアノ科卒業

平澤 仁 (ヴァイオリン)
JIN HIRASAWA
ロータリー財団奨学生、第2770地区ロータリー友
会、ヴァイオリン専攻、地区財団奨学生として米国
ニュー・メキシコ州のヴァイオリン音楽院に在籍、米国
フルハーモニー交響楽団コンサートマスター、埼玉
県立音楽院卒業

藤川有樹 (ピアノ)
ARUKI FUJIKAWA
ウィーン国立音楽大学ピアノ科に在籍、(小田嶋
城の音楽、ピアノ)専攻、2020年、オランダにて
Columba world Piano Duo Competition第1位を受
賞、大阪出身

〈司会〉 梁取 里 SATO YANATORI
第2300地区ロータリー友会(地区補助会幹事としてウィーンへ留学、東
京府立音楽大学音楽学部卒業、同大学大学院音楽研究科修士号、博
士号取得、NHKFMラジオ「ユウ」の「二重奏」の司会、音楽家、演
奏者、作曲家

お問い合わせ: 090-1372-0123 (吉田)

千葉西ロータリークラブ	総数	出席	前々回の修正	メンバー	本日の出席率	ニコンBOX	本日の合計	次週プログラム
	46名	0名		0名	0.00%		0円	8月17日(火)
対象者		欠席		欠席	前々回の出席率		本年度累計	Zoomオンライン例会
	46名	0名		0名	0.00%		245,000円	ガバナー補佐公式訪問
								クラブ協議会
								12:30点鐘 (千葉スカイウィンドウズ 東天紅)